

け や き

花火のようにたゆみない「努力」と「あゆみ」

大仙市教育委員会 教育長 三浦 憲一

今年度も大仙の児童生徒が、学力や体力でも「大曲の花火」のように、熱く爽やかに力強く活躍してくれました。それは“心の芯”がしっかりしていたからでしょう。支えていただいている学校、家庭、行政、企業や市民ボランティア等の皆様方に改めて感謝をいたします。

音と光の街を標榜^{ぼう}しております大仙市にとって、12月に大曲中学校吹奏楽部が全国マーチングバンド埼玉大会で最優秀賞（全国一）に輝いたことはうれしい限りです。

また、8月の花火百年記念大会は80万人の見物客で賑わいました。その前の3月に実施された、新作花火コレクションでは三角錐^{すい}の立体形花火が打ち上げられ、既成概念が打ち破られどよめきました。全国の都市教育長協議会でそのお話をさせていただいたら、「本当に??、花火の内容もすごいので、学力にも影響しているんですね」と、ある教育長さんに言われました。「・・・」「さまざまな環境がいいんですよ」と、とっさに答えさせていただきました。

市の花火師さん方から、小・中学生に“花火とはなんぞや”とものづくりの視点でたくさんのお話をさせていただき、実演もしていただきました。「一瞬に勝負をかけるが、思い通りにならない苦勞」、「安全性第一で、伝統を守りつつ絶えず新しいアイデアと技術、工夫が要求される」、「お客さんのニーズに応える」……。外には現れない冬場の作業や努力が、大輪の花や創造花火になって夜空に舞う姿が感動を呼び起こし、心地よい残像になって脳裏に浮かびます。

教育を考えたとき、児童生徒がふるさとに思いを馳せ、自立して花火のように羽ばたくための意欲を育てる「学びの総合マネジメント」が必要であると感じます。地域と一体となった教育の重要性、多様性の受容（全ての人が各自の持て

る力をフルに発揮し、組織に貢献できるような環境）、わかりやすい理念や目標行動と実践の学校力も大切になってきました。小さな「事実のできごと」を大切にし、積み重ねる学校教育の重要性であります。

他県からの教育視察団約600名は、「私たちの大仙市では、各学校では、これができますよ。こんなよいことがありますよ」という、「事実のできごと」に反応して大仙市に來られました。「花火のように、みんないいものを創ろうと前に向かっていく」という評価をいただいております。早く引き受けていただいた学校関係者にも感謝します。いつでも“学んで教える”という姿勢が大切だと思っております。

集団の学習では一斉、一律も必要な場面が多くありますが、それぞれの子ども状況に応じた学習をデザインし、対応して獲得させていくことが今後の方向性ではないでしょうか。花火師さん方のデザイン力や、開く花を想定し一つひとつの火薬を詰め込んでいく玉づくりは、一瞬のできごとではなく持続可能なものづくりの姿ではないでしょうか。たゆみない「あゆみ」を大いに学びたいものです。

花火師の講話
横堀小学校



花火師の講話
大曲中学校

小学校外国語活動及び外国語科を軸にした小・中連携の在り方

大仙市立仙北中学校 教諭 高階 寿徳

1 はじめに

本校生徒は、進んで汗して働くことをいとわず、素直で純朴である。しかし、自己表現を苦手と感ずる生徒が多く、表現力の育成が本校の課題となっている。

そこで、小学校外国語活動及び外国語科を軸にした小・中連携の取組を通して、両校が課題としている子どもたちの表現力やコミュニケーション能力の育成が大いに期待されるものと考え、この実践に取り組んできた。

2 研究の概要

【研究のねらい】

伝え合う楽しさや分かり合える喜びを感じながら豊かに表現し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童生徒の育成

【研究の重点】

- 段階を踏まえた小・中連携についての研修
- 小学校外国語活動及び外国語科の5年間を見通したカリキュラムの開発
- カリキュラム開発の手法の一般化と他教科への活用

3 主な実践

【小・中連携の段階についての研修】

①第1段階…教師間の情報交換
小・中における学習内容や児童生徒の様子について全職員で情報交換を行う。

②第2段階…四つのスタイルの交流

- I 小・中学校教職員の授業参観や研究協議等
- II 小学校の授業に中学校教員が参加
- III 中学校の授業に小学校教員が参加
- IV 小・中学生の交流学習

- 5/ 6 研究推進委員会① I
- 7/13 直山教科調査官講演会
授業研究会① I
- 8/ 8 合同研修会① I
- 9/ 1 授業研究会② I II
- 9/21 生徒を語る会 I
- 11/24 授業研究会③ I II III IV
- 1/11 合同研修会② I
- 2/ 2 合同研修会③ I
- 3/ 3 研究推進委員会② I
- 3/24 小・中連絡協議会 I



③第3段階…カリキュラム作成

小・中の系統性を図ったカリキュラム作成については、一年次は小学校外国語活動及び中学校外国語科に特化して研究に取り組み、二年次には一般化を図って他教科へつなげる。

【5年間を見通したカリキュラムの開発】

○学習指導要領における小学校外国語活動及び外国語科それぞれの、ねらいの共通理解を図る。

- (小) コミュニケーション能力の素地を養う
- (中) コミュニケーション能力の基礎を養う

- ・外国語活動、外国語科担当間で確認
- ・7/13の教科調査官訪問にて再確認

○カリキュラム開発に必要な要素の洗い出しを行う。

- ・小学校及び中学校それぞれに関連する事項を要素として盛り込む。
- ・「言語の働き」「コミュニケーションの働き」を要素として盛り込む。

○子どもの実態に応じたカリキュラムの開発を行う。

- ・子どもたちの意欲を促す工夫
- ・年度内に小5～中3までの5年間の年間指導計画と単元計画の完成を目指し、次年度は、実践に基づき見直しを行う。

【カリキュラム開発の手法の一般化と他教科への転用】

- ・新学習指導要領への対応



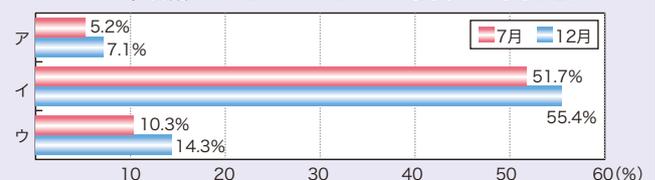
4 生徒の変容

【英語の学習に対する意欲の高まり】

こうした取組により、次のグラフに見られるように、生徒の学習意欲は少しずつ高まってきている。

英語の学習で学びたいことは、何ですか。(対象:1年生)

- ア. 英語であいさつができるようになること。
- イ. 英語で話すことができるようになること。
- ウ. 英語でコミュニケーションができるようになること。



5 成果と課題

【成果】

小・中連携の新たな視点として「交流のスタイル」と「カリキュラム開発」という二つの視点から研究を進めることができた。

特に、交流の四つのスタイルを設定することで、目的を明確にした連携が図られるようになった。

【課題】

本研究でねらいとする、子どもたちの表現力やコミュニケーション能力の育成については、その成果と課題を検証する手立てについての研究をさらに進め、今後に生かす工夫が必要である。



特色ある教育活動支援事業

小学校との連携による 9年間のキャリア教育

大仙市立協和中学校 校長 千田 文和

1 実践の概要

本校では、平成18年度に文部科学省指定キャリア教育実践プロジェクトによる5日間連続の職場体験（2年生全員）を実施した。指定終了後も毎年5日間の職場体験を行い、本校の教育目標である「心豊かに よく学び 自己の目標に向かって努力する生徒」の育成に取り組んでいる。今年度は、秋田県の「特色ある教育活動支援事業」を活用し、さらに小・中連携を基盤としたキャリア教育を推進した。

2 小・中連携によるキャリア教育の推進

(1) その道の達人

「9年間の見通しと発達の段階に応じた具体的な施策」をもとに、キャリアプランニング能力を育成するために「その道の達人による講演会」を6回実施した。そのうち、2回は小学生も参加し、多様な職業に対する考え方やそれぞれの発達の段階に応じた生き方について学んだ。



(2) 児童生徒の交流

小学6年生による中学校での体験授業のほかに、3回に分けて中学生の代表者が小学校を訪問し、6年生と交流を行った。



本校1年生は、6年生がよりよい中学校生活を送ることができるように、授業内容や部活動等について具体的な説明をした。また、本校3年生は、算数の問題の解き方や中学校での学習の仕方についてアドバイスをした。



また、人間関係形成能力の育成の観点から、小・中学生が一緒になって朝のあいさつ運動を実施した。

3 成果と課題

職場体験では、ほとんどの生徒が充実感を感じ、あいさつなどの基本的な生活習慣の大切さを実感できた。また、次の仕事を自分で考え、進んで行動する生徒も見られた。



地域に根ざした職場体験を本校の貴重な財産のひとつとし、さらに発展させていきたいと考えている。また、小・中連携によるキャリア教育は、今年度の実績をもとにさらに推進していきたい。



新しい自分を見つけよう！ キャリア・スタート・ウィーク

大仙市立西仙北東中学校 教諭 高橋 美浩

大仙市教育委員会指定のキャリア・スタート・ウィークは次の内容で行われた。

- 1) 対象 2年生全員55名
- 2) 期間 7/30、8/16～8/23のうち5日間
- 3) 場所 24事業所…畜産・園芸農家、スーパー・商店、老人福祉施設、自動車整備工場、保育園、小・中学校等

事業所から、「暑い中だらだらすることなく、とてもがんばってくれた」「積極的に取り組んでくれたので楽しく教えることができた」「真面目に取り組もうとする意欲があった」などのコメントをもらった。

生徒たちの感想は、「あいさつや言葉遣いは大切だ」「貴重な体験をした」「役に立つことがわかった」「失敗が危険を呼ぶ」などだった。

活動を終えて嬉しかったのは、これを契機に、新しい人間関係が生まれたことだった。地域の各事業所には大変感謝申し上げる。来年度も、この活動をつなげ、キャリア教育の充実を図りたい。



幼稚園地域活動事業

つな お米が繋がったあたたかい心

大仙市立太田みなみ幼稚園 園長 倉田 吹紀子

本園は、保護者や地域の協力を得ながら、「花と野菜の栽培」を保育に取り入れて9年目になる。

今年度は、【食育】についてのテーマを『よく遊び・よく食べ・よく寝るバランスある生活』と設定し、直接（栽培）体験を通して【健康な体と心】の育成を目指してきた。

お米との出会い

- 春・大曲農業高等学校太田分校
(田植え応援と苗のプレゼント)
- ・日曜参観おにぎりパーティー
- ・バケツ稲植え



ハブニング続出

- 夏・猛暑とカメ虫騒動
- ・「お米講座・あきたこまち劇場」

うまい秋田米

- 秋・稲刈り・乾燥・脱穀（千歯^{こき}扱で）
- ・精米
(野球ボールやゴマすり棒で)
- ・畑の根野菜で祖父母とカレー作り



お米で繋がる

- 冬・ジャンボ海苔巻きに挑戦
- ・ポン菓子作り

四季折々の中で米と関わる体験からは、たくさんの方の温かい心に触れ、発見や驚きの気づきが生まれ、自然の営みと命の繋がりを学んだように思われる。

全国学力・学習状況調査の結果を活用した調査研究

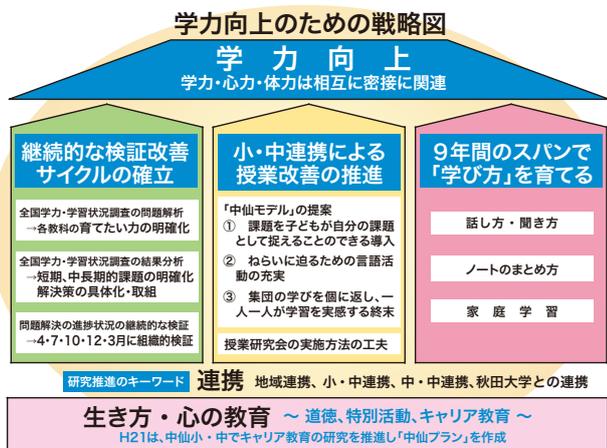
課題を改善する継続的取組 ～一人の百歩より百人の一步～

大仙市立中仙中学校 校長 田仲 誠 祐

中仙小学校、清水小学校、中仙中学校は、文部科学省の本事業の研究協力校として、県の課題の一つである学力における「中1ギャップの解消」を目指して一年間研究を進めてきた。

1 研究の概要

秋田県検証改善委員会がまとめた「学校改善支援プラン」を参考に、次の戦略図に示すように研究の柱を三つ設けた。研究を進めるに当たっては、「連携」をキーワードに「一人の百歩より百人の一步」を重視した。



2 今年度の研究から得た成果と副産物

4・7・10・12・3月にチェックを行う中仙地区としての検証改善システム、「中仙モデル」を共有した授業改善への取組は本研究の主な成果である。その他にも研究を通して次の副産物を得ることができた。

○中仙地区教育研究会の発足

組織的・機能的でコンパクトな研究会。必要なことをすぐに実行できる強みをもつ。

○秋田大学の支援

大学の先生から、専門的・客観的な視点で継続的に指導いただけるシステムができた。

○他県とのネットワーク

遠くは宮崎など6県からの視察を迎えた。情報を発信することが自らを振り返ることにもつながり、他から貴重な情報も得ることができた。



3 今後に向けて

本研究を今年度だけのものに終わらせないためにも、さらなる連携と公開が大切である。私たちの研究は達成することよりも、継続的に取り組んでいくことの方が重要である。中・長期的課題の改善状況については



今後も検証していかなくてはならない。特に、「中1ギャップの解消」については、地区教育研究会のさらなる活性化を図りながら進める必要がある。

教育課程研究指定校事業

新学習指導要領の趣旨を具体化するための指導方法の工夫改善に関する研究

大仙市立大曲中学校 教諭 佐藤 秀 敏

1 研究主題

本研究指定事業の実施に当たり、次の二つの研究主題を設定した。

- 発達の段階に応じて明確化された指導内容を実現するための単元計画及び学習内容の検討
- 例示を具体化するための指導方法及び評価の工夫

2 研究の重点

①目標、内容、授業、評価の一体化を目指した単元計画の検討
球技・ゴール型（バスケットボール）の実践を行い、系統的な学習の構築と指導内容を明確にした実践を目指し、「単元の構造図」の作成とゲームの局面に着目した学習指導の工夫を行った。

②体づくり運動の授業の充実

体づくり運動の授業の充実に向け、第1学年と第2学年の指導内容に加えられた次の2点について、単元の構造図を作成して取り組んだ。

- ・一つのねらいを決めて、その中からいくつかの運動を効率よく組み合わせる簡単な運動の計画を立てる。
- ・体力を高める運動のうち、ねらいが異なる簡単な運動例をバランスよく組み合わせる簡単な運動の計画を立てる。



③知識を活用する学習活動を取り入れた保健学習

新学習指導要領に「医薬品についての指導の充実」が新たに示されたことから、「健康の保持増進や疾病の予防には、保健・医療機関を有効に利用すること。また、医薬品は正しく利用すること。」という内容において、知識を活用する学習活動を取り入れるなどの指導の工夫を行った。

3 取組の成果（生徒の変容）

単元の構造図を指導に生かすことで、より確かな評価につなげることができたと捉えている。

そして、生徒は段階的で系統的な学習を進めたことにより、学習した技能を次のステップでも生かすことができ、つまずきが解消され、技能面での高まりが見られるようになった。

また、学習のねらいやめあてを達成するための方策を話し合う場面を設定し、結果を実際のプレイに生かす場の工夫を行うなど、話し合い活動の充実を図ってきた。

生徒は、体育の学習で主体的に話し合い活動に参加し、ねらいに沿った内容について作戦を練り合う姿を見ることができるようになってきた。



4 まとめ

新学習指導要領及び解説の理解を深め、示された内容に沿った実践や系統的で段階的な指導と一体化された評価を行うことの大切さを感じた2年間であった。

特色ある教育活動支援事業

コラボスクール構想を通して こころひらいてゆめをそだてる

大仙市立大曲小学校 教諭 板垣 淳

1 コラボスクール構想とは

本校では、学校と家庭・地域社会・その他の関係者とが連携（コラボ）することで、本校の諸課題の解決と、学校教育目標「こころひらいてゆめをそだてる」の実現が図られると考え、これをコラボスクール構想と命名し、昨年度から県の「特色ある教育活動支援事業」の指定を受けて実施している。

2 各種連携（コラボ）とその内容

(1) 家庭・地域社会との連携

- 曲小見守り隊、ゲストティーチャーを招いた地域参画型授業、保護者や地域住民参加の鹿島流し等の伝統行事、児童や地域社会が連携したあいさつ運動など



(2) 学校間の連携

- 大曲高校英語科による外国語活動への学習支援、国際教養大学留学生との異文化交流、秋田大学教員の出前授業など



(3) 各種団体や関係機関、地元企業との連携

- 地元企業の協力による食育教室や校舎内壁塗装作業、町づくりグループのバザー協力、サタデースクール（高校生による学習支援）開催など

(4) 各界の専門家やその道の達人との連携

- 舞の海氏や秋山仁氏によるスペシャル授業、さとう宗幸氏や伊藤由布花氏による学年歌スペシャル授業、博士号教員による理科出前授業など



(5) その他（情報発信等）の連携

- ホームページの充実強化による学校情報の発信など

3 コラボスクールの成果

この2年間の成果は、

- ①夢や目標をもった子どもたち、困難や失敗をおそれないで挑戦しようとする子どもたちが大幅に増えた
- ②現在不登校傾向の子どもはいるが、全ての子どもが何らかの形で毎日学校に来ている
- ③連携を助けてくださるスクールサポーターの方々が延べ5千人を超えた

などが挙げられる。

この大きな成果を自信に、子どもたちも教職員も、「こころひらいてゆめをそだてる」の教育目標の具現化に向けて日々努力し続けている。

国際教養大学留学生との異文化交流事業

伝え合う喜びを感じて

大仙市立東大曲小学校 教諭 川尻 英二

本校では今年度国際教養大学留学生の方々との交流を5回行った。そのうち1回は大学を訪問させていただいた。また、最後の交流では、そば打ち体験に参加してもらうことができた。



この交流を通して、子どもたちはいろいろな国の人たちと直接触れ合うことができ、外国の文化に対する関心を深めることができた。



特に、国際教養大学訪問は、大学が持つ高度な学習施設を直接見ることができ、キャリア教育の観点からも将来の自分の学校生活を考えるよい機会となった。

今回の交流体験で子どもたちは、今自分たちが使える英語で積極的に話しかけ、言葉が通じたときの喜びを味わうことができた。

学校支援地域本部事業

地域につくられた学校応援団

～できる人が できる時に できることを～

大仙市立大曲西中学校 教頭 若林 邦夫

中学校としては、大仙市初の学校支援地域本部事業の委託を受けたのだが、内小友小学校、大川西根小学校、本校の3校では、長年にわたり地域と密着した学校行事や活動が行われている。

例えば、内小友小学校では、田植え、稲刈り、餅つき。大川西根小学校では、全校音楽・ミュージカル、「たッピーガーデン&菜園活動」。本校では、学校農園活動、職場体験。小・中合同では、花火の里クリーンアップ、地区民運動会などである。

ふるさと教育の目指す自然・社会体験活動の推進と地域の人々の交流を深める学習活動には、欠かせない取組である。ただ、どれをとってもテーマ（人手）、ヒマ（時間）、カネ（予算）がかかる。児童生徒数の減少に伴い、様々な行事や活動の縮小化が懸念される今だからこそ、ますます保護者や地域の方々の援助がありたく感じられる。今後は、地域の支援人材を三校で共有できるようなシステムづくりや、学校や子どもの力を地域に還元することに取り組んでいかなければならないと思う。



道徳教育実践研究事業（特別活動推進校）

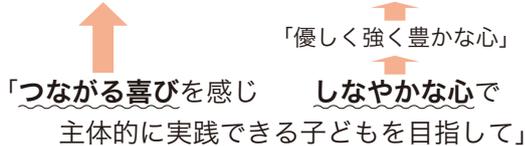
『よりよい人間関係』と『自主・自律』

大仙市立花館小学校 教諭 鈴木 裕子

研究主題

よりよい人間関係

自主・自律



- 「よりよい人間関係」と「自主・自律」は道徳教育と特別活動共通のキーワード
- 研究の中心領域は学級活動の充実（共に生きる」ためのよりよい生活づくり）



研究推進の視点と取組

- ①道徳の重点を意識した実践計画作成
- ②学級活動の充実
 - ア) 学校活動（1）の指導を充実させるため
 - ・集団決定のための話し合い活動の充実
 - ・話し合いコーナーの活用と議題集めの工夫
 - イ) 学級活動（2）の指導を充実させるため
 - ・共通理解の下で学級目標の適切な設定
 - ・児童の思いや願いを生かす指導過程の工夫
- ③研究組織を機能させた研究推進



大人の後ろ姿

大仙市PTA連合会 会長 加藤 実

子育ての基本・原点、それは家庭教育にあると思う。子育ての考え方は様々だろうが、子どもが健やかにたくましく成長してほしいと思う気持ちは、誰しもがもっている思いであり、願いであると思う。失敗を乗り越え一歩踏み出せるたくましさや、人を理解し思いやる心もち、責任感や勇気のある子どもに育てることが家庭における教育なのではないだろうか。そして、地域の一員として責任ある役割を果たせるように育てていかなくてはならないと思う。



私たちPTAも地域との連携を重視し、子どもの安心・安全確保に努め、自他の生命や人権を大切にすることや、食育と基本的な習慣を確立させることなどを目標として掲げ、活動をしてきた。

私たち保護者は、子どもたちに何かを期待し、希望を託しているのだと思う。そのためには、大人として誇れる後ろ姿を見せることが大切であると思う。連合会もまた大きな後ろ姿を見せられるよう活動していきたいと考えている。



子どもの知的好奇心の高まりを目指して

～ 理科室は科学的な興味の発信地 ～

大仙市立大曲小学校 教諭 堀井 千代子

来るだけでワクワクするような、理科の雰囲気満ちた理科教室の経営を心がけている。

1 理科室を活用した取組の具体例

- (1) 主体的に学ぶ
 - …自由研究コーナー、発明工夫展出品作品の展示、郡市理科研究発表会への参加、科学雑誌と子ども新聞の常設、曲小版理科検定の実施と称賛、科学関係新聞記事掲示
- (2) 学習意欲の向上
 - …理科通信の発行、理科クイズの提示、TTによる授業（担任・養護教諭）、思考を促すモデルづくり
- (3) 日常生活とつなげる
 - …科学イベントの呼びかけ、GTや企業の出前授業、最先端科学情報の提供、大学での体験授業
- (4) 学びの場を広げる
 - …サイエンスコーナー（情報ボード）の設置、即席図書資料館、課題選択学習、協同調べ学習



2 成果

理科研究発表会出場者数の増加など、観察や実験が好きな子どもたちが増えている。

「大仙っ子 読書の日」スタート

11月 木 黙 みんなで読書

大仙市教育委員会学校教育課

春は4月23日の「子ども読書の日」。秋には11月第1木曜日の「大仙もく読の日」。新しい試みだったが、各校の読書活動は、まさに充実の秋であった。



市立図書館から提供された「親子で読みたいブックリスト」を活用し、図書委員会、ボランティアの方、お母さん、教員などによる様々な読み聞かせ会が各校で開催された。興味深い取組として、次のような取組も見られた。

〔南外中学校の実践例〕

公民館と連携して図書館の利用の仕方についての学習会や読み聞かせ会の実施

〔神宮寺小学校の実践例〕

「早く読まない大人になっちゃうよ!」をキャッチフレーズに、百人一首や「五色百冊チャレンジ」の実施

〔その他の実践例〕

「ファミリー読書デー」「読書まつり」「読み聞かせ会」「読書貯金」



本は頭と心の栄養である。さらにパワーアップを目指して、学校の図書館と市立図書館とのもの（本）と人との「連携」と「交流」をますます豊かにしていきたいものである。

大仙ブックスタート第2ステージへ!

豊かな体験活動推進事業

ゆたかにたくましく(白神体験)

大仙市立双葉小学校 教諭 浅沼 睦子

今年度本校は豊かな体験活動推進事業における推進校の指定を受け、5年生9名が3泊4日の日程で白神の地を訪れた。

新しい体験、厳しさを含んだ体験が児童のその後の生き方に大きな変化をもたらすことを願って行った本事業から、次の二つの活動を紹介したい。

1 漁師料理体験

しらかみ体験センターのメニューにはイカ焼き料理しかなく、地元漁協の婦人会に無理を言って魚をさばく体験をさせていただいた。みんな真剣な顔でサバの味噌煮とイカの天ぷら作りに挑戦した。



2 民泊体験

初めて外泊を経験する児童がほとんどだったが、保護者の心配をよそにそれぞれの民泊先で「夕食のハンバーグ作り」「漁船で遊覧」「夕食用野菜の収穫」などの楽しいメニューをこなし、民泊先の家族と臆することなく活発にコミュニケーションを交わっていた。



子どものための優れた舞台芸術体験事業

かかわり、学ぶミュージカル学習

大仙市立大川西根小学校 教頭 齊藤 聖士

20年目を迎えるミュージカル学習は、高学年が中心となって学習をリードする全校縦割りグループで進められる。上学年が下学年をマンツーマン指導する姿は全校音楽での「師匠と弟子」そのものである。学習の主役は、あくまで子どもたちである。



本年度は、標記事業の指定校として、演出の専門家の指導をたっぷりと受けることができた。台本作成から演技指導・舞台演出まで、子どもたちの悩みを全て受け止め、ヒントを投げ返す。子どもたちはそれを糧に課題解決に向けて取り組んでいく。

演じることで学ぶ表現力に加え、ミュージカル学習全般を通して、人とかかわる力・伝え合う力を身に付けることが、子どもたちの生きて働く力になるものと考えている。



豊かな体験活動推進事業

豊かな体験活動を通して

大仙市立清水小学校 教頭 井上 利光

本校は、今年度「豊かな体験活動推進校」として、5年生18名が3泊4日の宿泊体験活動を行った。

1 自然まるごと宿泊体験学習

田沢湖スポーツセンターを中心として、駒ヶ岳登山、野外炊飯、田沢湖でのカヌー体験等を行った。

初日の駒ヶ岳登山では、最高の天候に恵まれ、頂上では、秋田市の太平山はもとより鳥海山まで眺望することができた。子どもたちは、その絶景や高山植物の可憐さに感動し、約1時間半の登山の疲れも忘れ、大いに満足した様子であった。



2 ふるさど思いきり宿泊体験学習

田沢湖生保内の農家に泊まり、農作業や牛の乳絞りと、野菜の収穫、きりたんぼ作り、そば打ち体験等を行った。



雄大な自然の中での活動を通して、子どもたちに主体性や協調性、思いやりの心等が培われたことが、子どもたちの作文や保護者へのアンケートから伺うことができた。

子どものための優れた舞台芸術体験事業

音楽劇の力を学校教育に

大仙市立太田北小学校 校長 菊地 清志

今年度、国の「優れた舞台芸術体験事業」を活用させていただき、演技指導の回数が大幅に増やせたことから、過去3回の上演ではできなかったきめの細かい指導をしていただいた。昨年まで教師中心だった台本も専門家をお願いした。衣装は素材が舞台上に映え、デザインも登場人物の特徴をよく表現していて子どもの意欲を引き出した。音楽も作曲家をお願いすることができ、児童が作詞を担当し、より手作り感が強くなった。



専門家と深くかかわったことで、児童の動きにも変化が生まれた。各幕ごとのリーダーが中心になり、受け身から自分たちでつくり上げる劇へと変わった。下学年を引っぱっていこうとする姿勢も見られた。活動全体を通して、よいものをつくる厳しさを体験し、感謝の気持ちも生まれた。4年目の全校音楽劇



「スイミー2」公演は、客席のお客様をも巻き込み、テーマである「仲間」を見事に伝え、感動を共有することができた。

環境教育に関する取組を活用した調査研究

南地区でエコ連携

大仙市立藤木小学校 校長 小西 肇

「先輩方のプレゼン上手だった。」「私もあんな南中生になりたい。」

ユネスコスクールとなっている大曲南中学校のリードで、南地区3校が環境教育を通して連携したいというのがそのものねらいであった。活動のまとめとして小・中の活動成果を発表し合った12月22日の環境デーで、本校児童から寄せられたのが冒頭の言葉である。

本校では主に次のような取り組みを行った。

- 3年…エコ・クッキング
- 4年…ソーラーカー体験
- 5年…エコ・ハウス体験
- 6年…水質・水生生物調べ
- 全校…エコ・ドリームワールド等々



校内の蛇口はきちんと閉められ、人がいない教室の灯りは消されている。E S Dの精神が染みこんできていることを実感している。



中学生オーストラリア海外派遣事業

チャレンジする気持ちをもちたい

大仙市教育研究所

昨年までと比べ1日短くなった海外研修だったが、天候に恵まれ、大変有意義な8日間となった。滞在後半には、滞在先となっている州内に大洪水の被害が出た地域があったため、関係の皆様には大変なご心配をおかけした。幸い、一行は何の影響もなく、生徒たちは存分にオーストラリアでの生活を楽しむことができた。



研修後、「チャレンジする気持ちをもちたい」「人と関わりあうことの素晴らしさを知った」「大仙市のよさに気付いた」などうれしい言葉がたくさん聞かれた。さらに「今回学んだことを他の人たちのために生かしたい」と考えている生徒が多く、未来を担うリーダーが育ちつつあることを実感している。



特別支援教育の充実に向けた取組

～あたりまえのことをあたりまえに～

大仙市教育委員会学校教育課

特別支援教育が学校教育法に位置付けられ、特別支援学級の児童生徒だけではなく、通常の学級に在籍する支援を要する児童生徒も対象となってから4年が経過した。

本市では次のような取組により、特別支援教育の充実を図ってきたが、小学校はもちろん幼稚園や中学校でも、学校経営の大事な柱として取組が根付き、先生方の理解も深まってきているものととらえている。

- ① 学校生活支援員の配置
- ② 特別支援担当者研修会の実施
- ③ 小・中学校特別支援学級合同学習会のバス移動支援
- ④ 特別支援巡回相談の積極的活用
- ⑤ 適切な就学指導等



今後、重点として取り組むべきことは、やはり「連携と交流」である。「生徒指導提要（平成22年3月文部科学省）」でも特別支援に関する記述があるように、特別支援という「配慮」はも



う特別なことではない段階を迎えている。関係機関や教職員のさらなる理解と連携及び学校間の交流により、「すべての子どもが学校で輝く！」こんな学校を目指したいものである。

平成22年度 教育研究所のあゆみ

1 大仙市教職員研究集会

- ① 第1回大仙市教職員研究集会（平成22年4月21日）
 - ・平成22年度教育委員会関係職員紹介
 - ・教育長講話
 - ・「特色ある取組」の実践事例の発表（4校）
 - ② 第2回大仙市教職員研究集会（平成22年8月10日）
 - ・職務別研修会（午前）
 - *生徒指導研修会（情報モラル教育について）
 - *研究主任研修会（小・中連携の在り方について）
 - ・全体会（午後）
 - *中学校生徒発表
 - *フォーラム「大仙市の教育文化を考える」
- 県外交流教員等による経験の紹介等と教育長のまとめ

2 学校訪問（教育委員等訪問、教育長等訪問を実施）

- ① 教育委員等訪問…市や学校の教育方針の共通理解を深めた。
- ② 教育長等訪問…学力向上、校種間連携、特色ある取組等について状況を把握し、改善の手立てなどを確認し合った。

3 学力向上

- 全国や県の学習状況調査及び全国体力・運動能力、運動習慣等調査の分析結果を提供した。
- 学力向上推進委員会の活動として、全国や県の学習状況調査分析結果に基づいたフォローアップシート等を作成し、各校に提供した。社会、理科、英語は、新学習指導要領の課題等と県学習状況調査に対応したものを提供した

発行 大仙市教育研究所

〒014-0053 秋田県大仙市大曲花園町4-88
 TEL 0187-63-9400 FAX 0187-63-9401
 E-mail om-kyouken@edu.city.daisen.akita.jp